

平成 27 年度オジロワシ傷病個体收容結果

表 3 平成 12～27 年度オジロワシ傷病個体收容結果

年度 (平成)	交通事故	列車事故	風車衝突	不明衝突	感電事故	落水	鉛中毒	鉛暴露	栄養不良	不明	その他	(件)		收容個体数
												死体	生体	
12	1	1								12		6	8	14
13	2	1		1			3		1	3		5	6	11
14	1			2	2	1	6		1	2	2	8	8	16
15	3	2	2			1	2		1			9	2	11
16	2	2	1	2	1		2			2	2	6	8	14
17	5		1	3			1	1	2	2		5	9	14
18	3		3	1	1	1	1	1	3	5		9	9	18
19	8	1	6	2			1		1	2		14	6	20
20	5	2	5	1	1		3		1	5		16	7	23
21	3	2	4	1		1	2			5	1	7	12	19
22	3	2	4		1		2		2	7	3	14	10	24
23	3	3	4	4	1	1	2	2		4	6	9	19	28
24	1	2	3	1	1	2	2		1	2	2	8	9	17
25	6	3	7	1	1		4		3	3	1	15	14	29
26	3	4	3	3	2		1	1	3	2	1	16	6	22
27	5	6		2	1		1	1		7	2	13	12	25
計	54	31	43	24	12	7	33	6	19	63	20	160	145	305

※1 表中のデータは原因分析のためのデータが比較的そろっている平成12年度からとした。

※2 各原因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容個体があるため。

平成14年度：交通事故と鉛中毒が原因と考えられる收容が1羽

平成17年度：交通事故と鉛暴露が原因と考えられる收容が1羽

平成18年度：不明衝突と鉛暴露が原因と考えられる收容が1羽

平成19年度：鉛中毒と列車事故が原因と考えられる收容が1羽

平成23年度：風車衝突と鉛暴露、列車事故と鉛暴露が原因と考えられる收容が計2羽

平成26年度：不明衝突と鉛暴露が原因と考えられる收容が1羽

※3 青森県で発生した風車衝突2件（平成23年度に1件、平成25年度に1件）を含む。

※4 平成19年度の「風車衝突」には「風車衝突の疑い」が1件含まれる。

※5 「鉛中毒」は血中鉛濃度 0.6ppm以上又は肝臓中鉛濃度 2ppm以上、「鉛暴露」は血中鉛濃度 0.1以上～0.6ppm未満又は肝臓中鉛濃度 0.2以上～2ppm未満であったものを示す。

※6 「その他」としては、トラバサミ、羅網、食中毒、農薬中毒、感染症などがある。

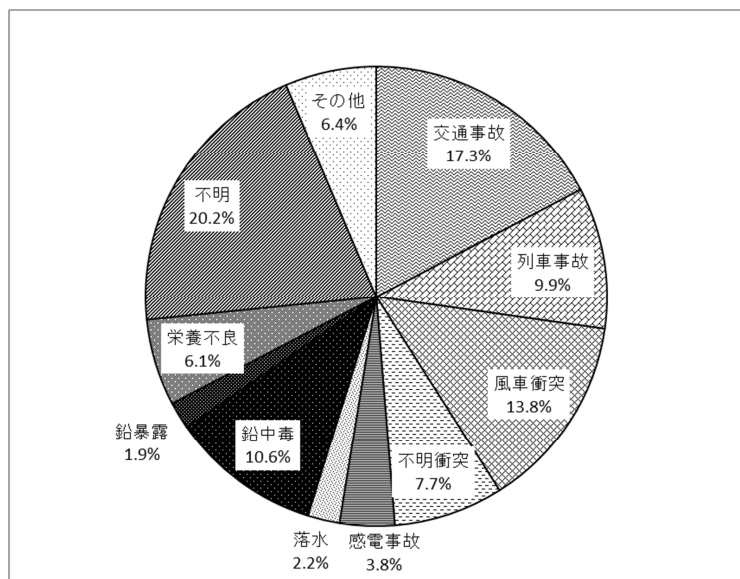


図5 オジロワシ收容原因別割合 (H12-27 年度)

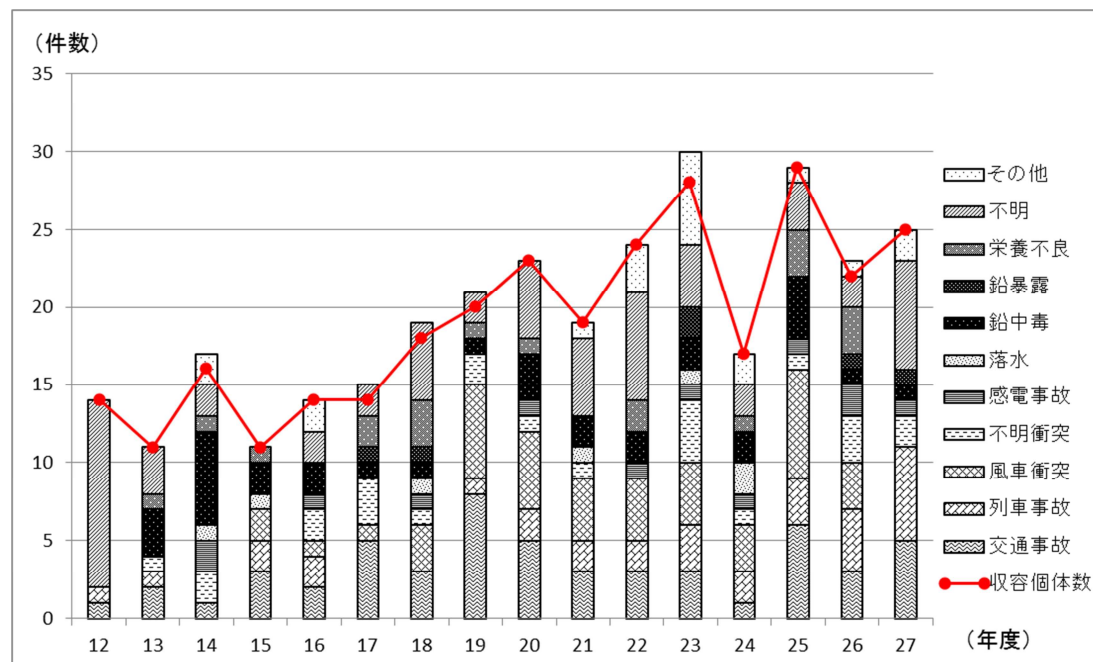


図6 オジロワシ年度別收容件数 (H12-27 年度)